

# カラスよりも賢く



## 被害軽減のヒント



カラス被害対策を行う上で、カラスがどのような生き物であるかを知ることが大事である。今回はカラスの五感について紹介したい。

実はカラスの嗅覚は鈍い。その証拠に、嗅覚をつかさどる脳の嗅球という部位が、他のトリに比べはるかに小さく、痕跡程度しかない。また、においは漏れるが中身は見えないように、紙で蓋をした容器を用意し、一方にはふやかしたドッグフードをいれ、もう一方には何もいれず、お腹をすかせたカラスに選ばせる実験をしたところ、カラスは当てずっぽうで容器

を選んだ。この実験からもカラスは鼻が利かないことがわかる。

さらに、味覚も鈍そうである。われわれヒトの舌には、味蕾という味を感じるセンサーが約9千個ある。一方で、カラスの味蕾は口腔内に約300個しかなく、ヒトの30分の1しか無い。しかし、食べ物の好みはある。高タンパク質、高脂質の食べ物は大好きで、唐揚げやマヨネーズは大好物だ。

カラスの聴覚は人間と同程度と考えられる。可聴範囲を比べると、むしろヒトより狭く、カラスも超音波は聞こえない。ただ、鳴き声で個体を識別できるなど、音を聞き分ける能力は優れていると考えられる。

触覚は優れていると考えられる。空を飛ぶトリ全般にいえることだが、翼で気流を的

## ②五感一ヒトとの比較

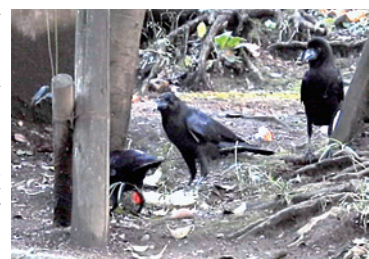
ヒトとカラスの色覚の違いのイメージ



ヒトの色覚  
3原色



カラスの色覚  
4原色



マヨネーズに群がるカラス

ンポイントで飛来する。網膜にある神経節細胞の数は、ヒトが約100万個に対し、カラスは約360万個、視細胞の数は、ヒトが平方センチ当たり約1万個に対し、カラスは9万個あり、われわれよりも高い分解能で対象物を見ているに違いない。

確かに捉える必要があるからだ。くちばしも敏感である。ハシボソガラスは地中の虫などをくちばしで探索する。ニユーカレドニアに生息するカレドニアガラスはくちばしで木の枝などを加工し、絶妙な力加減でイモムシを釣り上げる。

カラスの五感で最も優れているのは視覚である。はるか遠くから食べ物を発見し、ピ

い。

# 味・においに鈍く色覚など優れる

(塚原 直樹 株式会社C row Lab代表)